

速くて強い！伝説の名馬を描く

菊池契月《紫驪》1942（昭和17）年

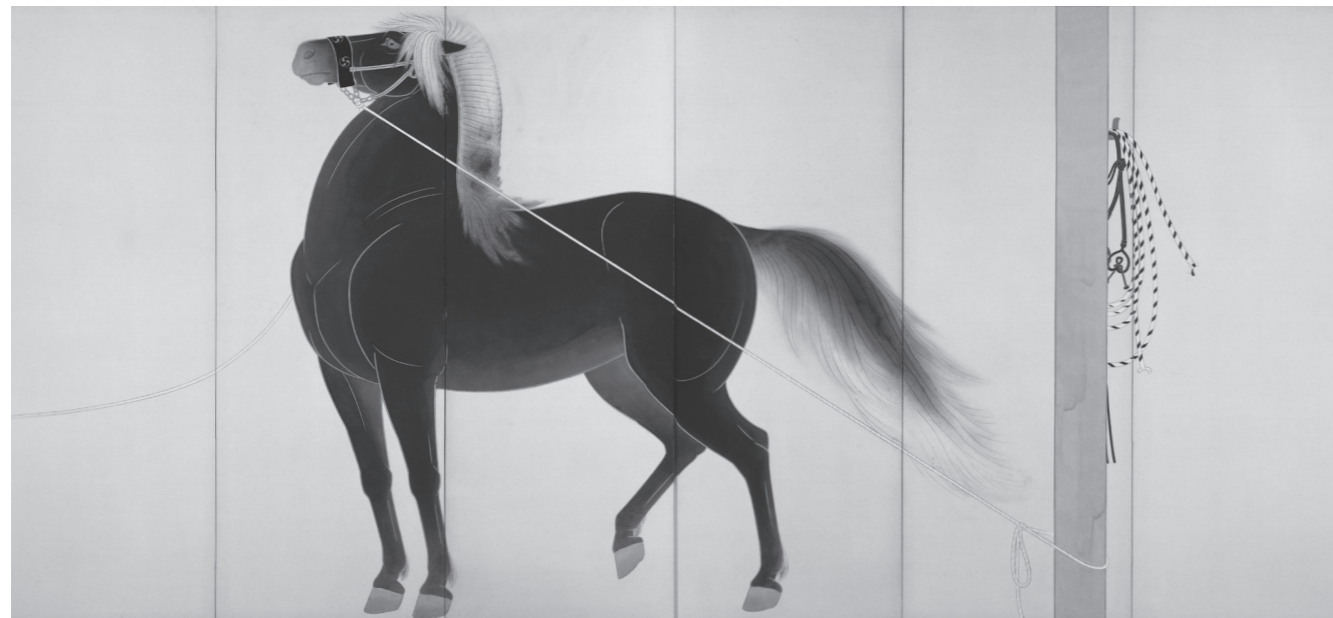
人が立派な乗り物に憧れるのは、今も昔も変わらないようです。現代の人が車やバイクに心を寄せ、時に鑑賞の対象とするように、昔の人は馬を愛しました。いかに毛並みがよく、いかに速く走り、いかに力強い体形をしているか。優れた馬は絵に描かれる対象となり、古来より中国や日本で名馬を題材にした作品が生まれています。それらの作品は、駿馬の姿を鑑賞者に知らせるだけでなく、馬の所有者の権力や優秀さを象徴するものでもありました。近代日本においても、名馬はしばしば画題に用いられています。

菊池契月（1879-1955）の作品《紫驪》は、平安時代の名馬を描いたものといわれています。「紫驪」とは、馬の種類を示す語で、黒栗毛の馬のこと。『源平盛衰記』には、紫驪であった名馬「いけずき（生食）」について記されています。高さ四尺八寸（約145cm）で太くてたくましく、生き物に食らいつくほど猛々しかったといえます。もとは源頼朝の所有でしたが、のちに家来の佐々木高綱に与えられ、高綱とともに戦場で活躍したことから、戦勝をもたらす神馬として有名になりました。

本作では、屏風の大画面の中心に、いけずきが堂々と描かれています。胸を張って前を見据える姿で、伝説通りの立派な体格が、張りのある輪郭線で表現されています。いけずきの特徴である黒栗毛の毛色は、塗りむらがあまり出ないように丁寧に塗られた、きれいな彩色となっており、背景の余白の中であってさらに黒の美しさが際立ちます。画面全体は洗練された雰囲気、緊張感のある作品となっており、契月の見事な手腕が発揮されているといえるでしょう。

作者の菊池契月は、長野の裕福な家庭に生まれ、画家を目指して京都に移り菊池芳文に弟子入りしました。はじめは芳文ゆずりのおだやかな線描を用いていましたが、昭和期になると、細く均一な、緊張感のある線を用いた、気品のある画風で人気を博し、同時代の竹内栖鳳と並んで多くの弟子を抱え京都画壇を牽引しました。

契月の名作《紫驪》。絵のなかの馬と目が合うと、思わずこちらも背筋を伸ばしてしまう。そんな気がする作品です。
（当館学芸員 森光彦）



菊池契月《紫驪》1942（昭和17）年

特集 昭和前期の日本画と古典

2023年12月22日〔金〕— 2024年2月25日〔日〕 本館 南回廊1階

出品リスト


No.	登録番号	作者	生没年	作品	制作年	形状・材質	サイズ (cm)	初出展	音声ガイド
昭和前期の日本画と古典									
106号室西									
1	日-147	菊池契月	明12-昭30	紫驪	昭和17年	紙本着色 屏風 六曲一隻	170.0 × 378.0	第7回市展	
2	日-142	菊池契月	明12-昭30	経政	大正15年	絹本着色 額	182.0 × 118.0	第2回菊池塾展	
3	日-112	菊池契月	明12-昭30	敦盛	昭和2年	絹本着色 額	189.5 × 85.0	第3回菊池塾展	
4	日-050	菊池契月	明12-昭30	交歓	昭和13年	紙本着色 額	220.5 × 145.0	第2回新文展	
5	日-148	菊池契月	明12-昭30	小楠公弟兄	昭和18年	紙本着色 額	172.0 × 113.0	第8回市展	
110号室									
6	日-063	西山翠嶂	明12-昭33	馬	昭和14年	絹本着色 額	166.0 × 188.0	第3回新文展	
7	日-040	橋本関雪	明16-昭20	長恨歌	昭和4年	紙本淡彩 額 5点組	42.0 × 104.0, 167.0,122.0,152.5, 150.0	第10回帝展	
8	日-1231	猪飼嘯谷	明14-昭14	拾君	大正4年	紙本着色 屏風 六曲一双	各166.0 × 372.0	第9回文展	
9	日-211	上村松篁	明35-平13	水魚二題	昭和4年	絹本着色 軸 対幅	各97.0 × 130.0	第6回青甲社展	29
10	日-294	植中直斎	明18-昭52	祈誓	昭和17年	絹本着色 屏風 三曲一隻 (観音開)	211.0 × 192.0	第5回新文展	
11	日-155	猪飼嘯谷	明14-昭14	遊釣水車図	明治後期-昭和初期	絹本着色 屏風 二曲一双	各167.0 × 185.0		
12	日-832	森 守明	明25-昭26	雨後	昭和2年	絹本着色 屏風 二曲一隻	189.0 × 204.0	第8回帝展 (特選)	
13	日-052	森戸果香	明31-平5	矢叫び	昭和13年	絹本着色 額	226.0 × 198.0	第2回新文展 (特選)	
14	日-062	新井勝利	明28-昭47	大仏勸進	昭和14年	紙本着色 額	225.0 × 167.0	第26回院展	
15	日-227	木村斯光	明28-昭51	傾く日ざし	昭和6年	絹本着色 額	231.5 × 183.0	第12回帝展	
16	日-116	植中直斎	明18-昭52	堀川夜襲	昭和19年	絹本着色 額	182.0 × 98.0	戦時文展	
17	日-060	猪飼嘯谷	明14-昭14	待機	昭和12年	紙本着色 額	270.0 × 178.5	第1回新文展	

※ : 音声ガイド
※前期: 12/22 ~ 2024/1/21
※後期: 2024/1/23 ~ 2/25
※都合により、出品作品を変更することがございます。
※リスト掲載順と展示順は必ずしも一致しません。






アンケートへのご協力をお願い

本日はご来館いただき誠にありがとうございます。右記 QR コードより、アンケートへのご協力をお願い申し上げます。

No.	登録番号	作者	生没年	作品	制作年	形状・材質	サイズ (cm)	初出展	音声ガイド
清らかな筆 窠本一洋の世界									
109 号室									
18	日- 005	窠本一洋	明 26 - 昭 27	饒春	昭和 3 年	絹本着色 屏風 二曲一隻	185.2 × 162.8	第 9 回帝展	 27
19	日- 1230	窠本一洋	明 26 - 昭 27	蟬丸	昭和 2 年	軸 三幅	(中央) 198.0 × 115.7, (左右) 各 197.0 × 51.5	第 8 回帝展 (特選)	
20	日- 038	窠本一洋	明 26 - 昭 27	鶴	昭和 11 年	絹本着色 額	174.0 × 255.0	昭和 11 年文展招待展	
21	日- 1086	窠本一洋	明 26 - 昭 27	沖の白石	昭和 14 年	絹本着色 額	71.3 × 85.0	第 4 回市展	
22	日- 1243	窠本一洋	明 26 - 昭 27	阿児	昭和 3 年	絹本着色 軸	158.5 × 89.0	第 29 回早苗会展	
23	日- 1260	窠本一洋	明 26 - 昭 27	髪	昭和 6 年	絹本着色 屏風 二曲一隻	144.4 × 168.0	第 12 回帝展	

茶碗の愉しみ：近代の共作を中心に




南広間									
24	工- 862	菊池芳文／ (五代) 清水六兵衛	文久 2 - 大 7 ／明 8 - 昭 34	芳文画煎茶器揃	明治後期 - 大正初期	陶器 (急須、湯冷まし、 煎茶碗 10 客)	急須:12.0×11.0×8.0, 湯冷まし:12.0×7.0×8.0, 煎茶碗:高 4.5、口径各 8.5		 125
25	工- 108	(五代) 清水六兵衛	明 8 - 昭 34	絵御本雪景茶盃	大正 3 年	陶器	高 5.7、口径 12.8、 底径 4.8		
26	工- 184	竹内栖鳳／ 樂惺人 (十三代樂吉左衛門)	元治 1 - 昭 17 ／明 20 - 昭 19	白梅図茶碗	昭和初年頃	陶器	高 8.0、胴径 12.5		
27	工- 859	菊池契月／ 樂惺人 (十三代樂吉左衛門)	明 12 - 昭 30 ／明 20 - 昭 19	契月画鶴図赤茶碗	昭和戦前期	陶器	高 8.0、直径 13.5、 底径 5.5		
28	工- 906	(初代) 宇野宗堯	明 21 - 昭 48	焰彩紅白茶碗	昭和 31 年	磁器	高 8.4、 胴径 11.8		
29	工- 412	前田青邨／ 河合卯之助	明 18 - 昭 52 ／明 22 - 昭 44	爛柯茶碗	昭和 37 年	陶器	高 7.8、口径 12.8、 底径 5.2		
30	工- 166	楠部彌弍	明 30 - 昭 59	色絵扇面三友茶碗	昭和 54 年	陶器	高 7.4、口径 12.0		
31	工- 647	叶 道夫 (三代叶 松谷)	昭 23 -	色絵松竹鶴亀文茶碗 (還元焰)	平成 7 年	陶器	高 7.5、胴径 12.0		
32	工- 672	木村盛康	昭 10 -	天目宙茶盃	平成 17 年	陶器	高 6.5、口径 14.3		
33	工- 631	山田 晶	昭 34 -	猩々緋茶碗	平成 17 年	陶器 金紙	高 7.5、胴径 11.0		
34	工- 024	河村蜻山	明 23 - 昭 42	瑠璃磁群鷺図花瓶	昭和 8 年	磁器 刻文	高 52.5、 胴径 35.5、 口径 13.5	第 14 回帝展	 80
35	工- 174	近藤悠三	明 35 - 昭 60	梅染付金彩壺	昭和 58 年	磁器	高 21.4、 胴径 24.0、 口径 14.3		 122

「女」の前衛：坪井明日香の陶芸

108 号室									
36	工- 965	坪井明日香	昭 7 - 令 4	チャッター・ボックス	昭和 47 年	陶器 金彩	60.0 × 38.0 × 39.0		
37	工- 473	坪井明日香	昭 7 - 令 4	上方地図皿 大阪	昭和 52 年	陶器 金彩	70.0 × 68.0 × 20.0	女流陶芸展 (京都市美術館、1977 年)	
38	工- 151	坪井明日香	昭 7 - 令 4	唐織袋「月輪」	昭和 57 年	陶器	高 42.0、胴径 36.0、口径 44.0		
39	工- 967	坪井明日香	昭 7 - 令 4	びわ物語	昭和 57 年	陶器	16.0 × 55.5 × 30.0		
40	工- 968	坪井明日香	昭 7 - 令 4	眠りの笛	昭和 57 年	陶器	11.0 × 74.0 × 15.0		

No.	登録番号	作者	生没年	作品	制作年	形状・材質	サイズ (cm)	初出展	音声ガイド
41	工- 969	坪井明日香	昭 7 - 令 4	楓小路	昭和 62 年	陶器	14.0 × 16.0		
42	工- 970	坪井明日香	昭 7 - 令 4	都小路	昭和 62 年	陶器	38.0 × 52.0		
43	工- 289	坪井明日香	昭 7 - 令 4	バリに残したロープか ら、マリー橋の人達	平成 1 年	陶器 3 点組	68.0 × 46.0 × 34.0, 79.0 × 44.0 × 37.0, 70.0 × 35.0 × 25.0		
44	工- 474	坪井明日香	昭 7 - 令 4	私小説	平成 9 年	陶器 青軸 金彩 銀彩 銅彩	47.0 × 42.0 × 25.0	女流陶芸展	
45	工- 475	坪井明日香	昭 7 - 令 4	豊穰のしたたり	平成 12 年	陶器 黒軸 銀彩	70.0 × 40.0 × 81.0	女流陶芸展 (京都市美術館、1997 年)	
46	工- 476	坪井明日香	昭 7 - 令 4	都市 - 喧騒と孤独	平成 13 年	陶器 多彩釉 銀彩 3 点組	49.0 × 49.0 × 47.0, 67.0 × 40.0 × 47.0, 40.0 × 48.0 × 27.0	「坪井明日香-わが心の軌跡-展」 (パラミタミュージアム、2010 年)	
47	工- 971	坪井明日香	昭 7 - 令 4	女のおしゃべり	平成 15 年	陶器 金彩	62.0 × 49.0 × 24.0	女流陶芸展 (京都市美術館、2001 年)	

雪月花－風雅な眺め－

107 号室									
48	書- 005	富岡鉄斎	天保 7 - 大 13	雪月花茶詩書	明治 39 年 - 大正 5 年	墨 紙 屏風 二曲一双	各 137.0 × 68.0		 125
49	日- 595	池田遙邨	明 28 - 昭 63	雪田	昭和 54 年	紙本着色 額	117.0 × 80.0		
50	日- 1048	上村淳之	昭 8 -	蓮池の冬	平成 7 年	紙本着色 額	130.0 × 97.0	第 21 回春季創画展	
51	日- 037	川村曼舟	明 13 - 昭 17	霧水	昭和 11 年	絹本着色 額	124.0 × 147.0	昭和 11 年文展招待展	 102
52	日- 127	宇田荻邨	明 29 - 昭 55	清水寺	昭和 32 年	紙本着色 額	90.0 × 120.0	第 13 回日展	 108
53	日- 605	富田溪仙	明 12 - 昭 11	雪中鹿	昭和 5 年	絹本着色 軸	66.3 × 71.7		
54	日- 1042	村瀬玉田	嘉永 5 - 大 6	月下白梅眠鶯図	明治 44 年	絹本着色 軸	169.7 × 83.3		
55	洋- 551	櫻井忠剛	慶応 3 - 昭 9	梅花図	明治期	油彩 板 額	22.7 × 35.3		
56	工- 194	高木敏子	大 13 - 昭 62	綴織壁掛日時計	昭和 47 年	織物 タペストリー	180.0 × 150.0	第 4 回改組日展	
57	工- 502	久保田繁雄	昭 22 -	Echo of Wind V	昭和 58 年	ザイザル麻 ナイロン	200 × 400 × 70	第 11 回国際タピストリー ビエンナーレ	
58	工- 363	磯邊晴美	昭 16 - 平 16	地の襷	平成 6 年	綴織 麻 ウール 絹	170.0 × 180.0		

106 号室東									
59	日- 1206 (前期)	小松 均	明 35 - 平 1	杉の雪	昭和 15 年	紙本着色 屏風 六曲一双	各 172.5 × 370.4	第 1 回山南会展	
60	日- 170 (後期)	木島桜谷	明 10 - 昭 13	寒月	明治 45 年	絹本着色 屏風 六曲一双	各 167.0 × 372.0	第 6 回文展	 6
61	日- 306	福田平八郎	明 25 - 昭 49	閑庭待春	大正 14 年	絹本着色 パネル 3 枚組	各 193.0 × 180.0	第 6 回帝展	

屋外常設展示

美術館南西角									
62	彫- 047	富樫 実	昭 6 - 令 1	空にかける階段 '88- II	昭和 63 年	花崗岩	1200.0 × 107.0 × 107.0, 1113.0 × 107.0 × 107.0		
天の中庭									
63	彫- 048	清水九兵衛	大 11 - 平 18	朱巖	昭和 63 年	アルミ合金	210.0 × 400.0 × 230.0		
64	彫- 167	山口牧生	昭 2 - 平 13	鞍	昭和 58 年	黒御影石	43.0 × 218.5 × 78.0		